

C-06

# あなたと切り拓くテレロボティクスの未来 ～やさしいチカラ、どこへでも～

## 着目した世の中の課題

日本は労働人口減少の問題に直面しており、人が効率良く働くための遠隔操作ロボットや人の代わりに働ける自律型ロボットが注目されています。こうしたロボットが広範に活躍するためには、多様なフィールドで屋内外を問わずに稼働でき、人のような繊細な動きの実現が必要です。

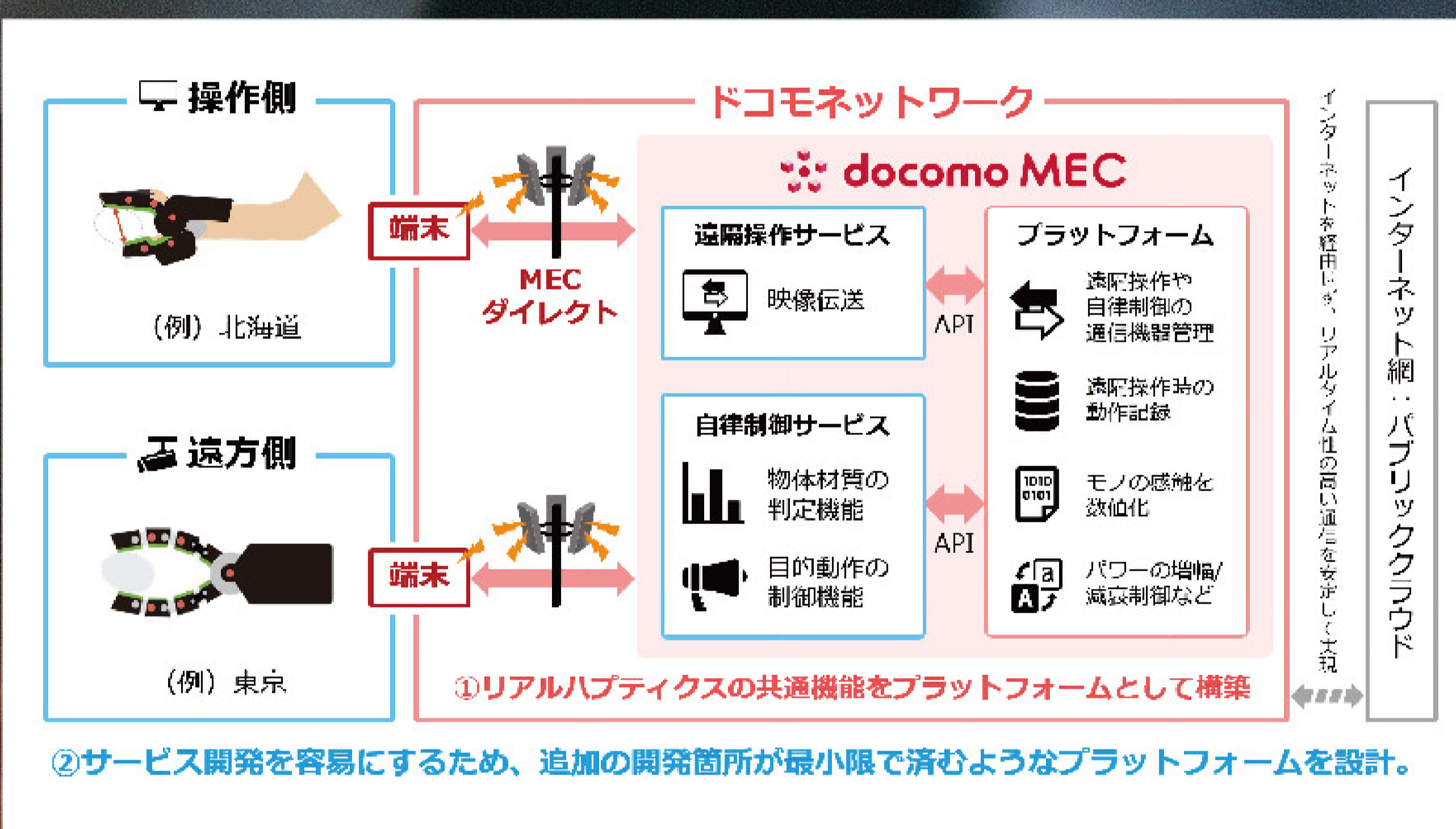
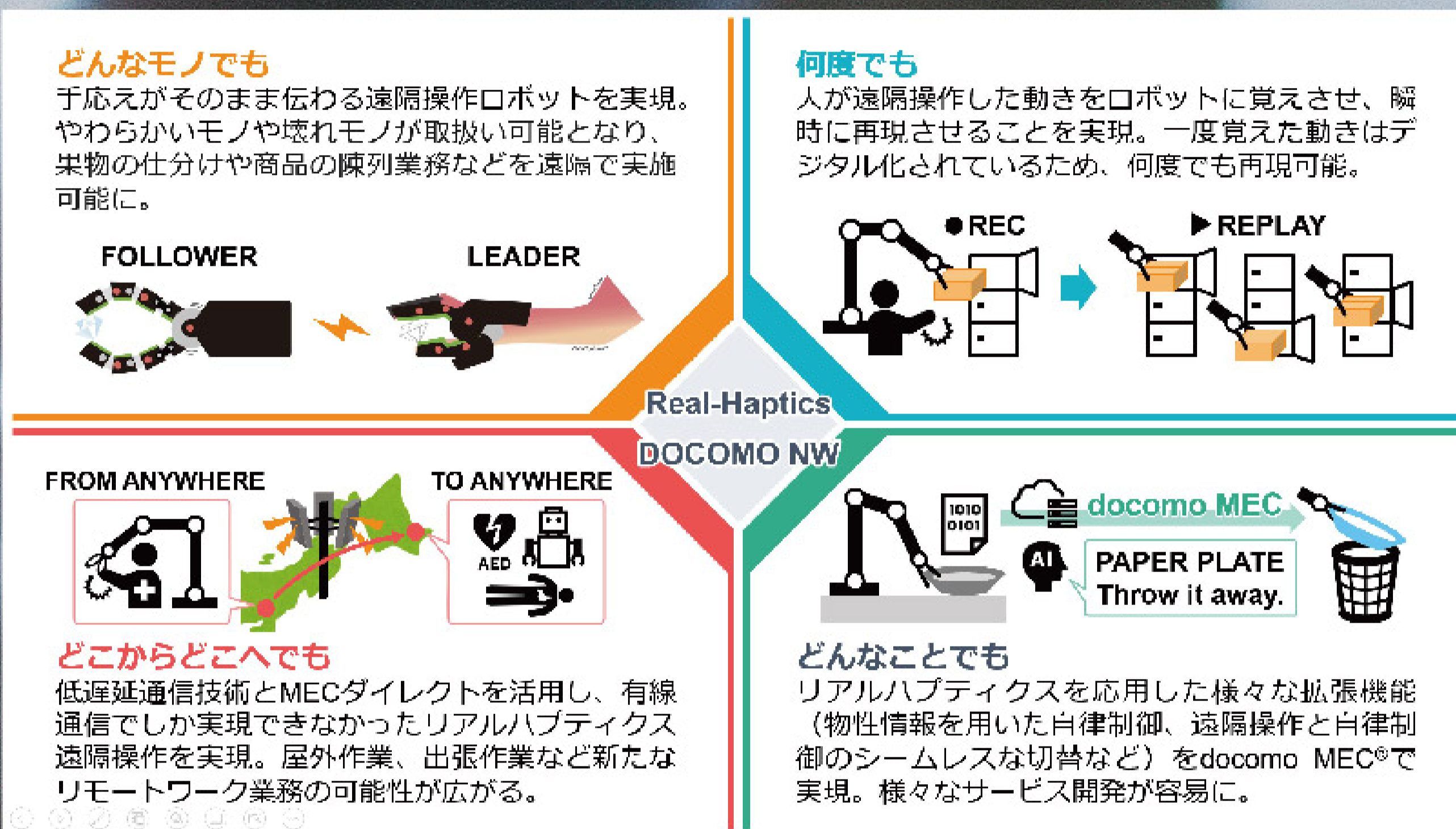
## 解決となる取組み

### 概要

無線通信とクラウドを土台とし、人が遠隔操作した繊細な動きをロボットへ覚えさせ、瞬時に再現可能な多自由度ロボットを実現しました。このロボットは無線通信で活動範囲を拡大するだけでなく、クラウド処理で多彩な自律制御を可能とするなど、さまざまな場面で活躍できます。

### 取組みを支える技術

慶大が開発したリアルハプティクス®は、力センサを使わずにロボットにかかる力の負荷を情報化できます。この情報をMECで分析することで、ロボット自身がモノの材質を判別でき、リアルタイムな自律動作を実現します。さらに、MECの低遅延性を活かし、場所を問わないロボットの安定稼働を実現します。



共創  
パートナー

慶應義塾大学 / 株式会社ACCESS

SDGs



屋外作業や訪問介護業務のリモート化、  
配膳作業や清掃作業のさらなる自動化など、  
移動コストの削減や労働生産性の向上はもちろん、  
手仕事の働き方を大きく変えることができます。

モバイルネットワーク×やさしいチカラでロボットを身近な存在へ